

作物名：ねぎ

病害虫名：ネギ条斑病病原ウイルス：アイリスイエロースポットウイルス  
(Iris yellow spot virus:IYSV)

## 1 被害の特徴と診断のポイント

- 葉身に不明瞭な退緑斑が発生し、その後淡黄色～白色のえそ条斑を生じる(写真1)。症状が進むと、融合して不鮮明な大型病斑となる。また、葉がねじれる場合もある。

## 2 伝染源・伝染方法

- 媒介はIYSVを保毒したネギアザミウマによって行われる。
- 幼虫時に感染植物を吸汁することによりウイルスを保毒し、終生ウイルスを伝搬する。(永続伝搬)
- 経卵伝染、種子伝染、土壌伝染はしないと考えられる。
- 寄生宿主はトルコギキョウ、アルストロメリア、タマネギ、ネギ、ニラ、アマリリス、ダッチアイリス、センニチコウ等である。



写真1 ネギ条斑病病斑

## 3 発病しやすい条件

- ネギアザミウマによって媒介されるため、ネギアザミウマが増殖に好適である高温少雨で発生が多くなる。

## 4 防除方法

- 本ウイルスの媒介虫であるネギアザミウマの薬剤防除を行う。
- 罹病株は伝染源になるので、見つけ次第抜き取り、ビニール袋に密封するなど適切に処分する。
- ほ場周辺の雑草等もネギアザミウマの増殖源となるため、除草や防除等を行い、ほ場周辺の環境整備に努める。
- 施設栽培では、開口部を寒冷紗や防虫網(目合い1mm以下)で被覆し、ネギアザミウマの侵入を防ぐ。

## 5 その他

- 本県においてネギ条斑病は2008年に発生が確認されている。

### 出典

#### (1) 参考文献

- 農業生物資源ジーンバンク

#### (2) 写真

- 宮城県病害虫防除所撮影

(令和5年9月改訂)